

OSTP、エネルギー効率性の高いコンピューティング・システム作成のための
新たなアプローチに関するコンペの実施を発表（10月20日）

大統領府科学技術政策局（White House Office of Science and Technology Policy : OSTP）は10月20日、ヒトの脳の効率性を利用した運用が可能なコンピューティング・システムの開発に向けた新たなアプローチを募集するコンペ「未来のコンピューティング・グランド・チャレンジ（Grand Challenge for Future Computing）」の実施を発表した。本コンペの内容は、コンピューティングの進歩とエネルギー消費に関連する問題を克服するための新たな研究を制限する主要要因を概説した、米国科学財団（National Science Foundation : NSF）と技術研究コンソーシアムの半導体研究コーポレーション（Semiconductor Research Corporation : SRC）が共同出資して4月14日と15日にバージニア州アーリントンで開催した「エネルギー効率性の高いコンピューティング・ワークショップ（The Workshop for Energy Efficient Computing）」の報告書に記載された結果及び提案事項に一致するものである。また、同コンペは、オバマ大統領が7月29日に署名した大統領令で発表された「米国戦略的コンピューティング・イニシアティブ（National Strategic Computing Initiative）」にも沿った内容となっている。

なお、本報告書は、<<https://www.src.org/nri/energy-efficient-computing-workshop.pdf>>からダウンロード可能。

National Science Foundation, New report on energy-efficient computing
http://www.nsf.gov/news/news_summ.jsp?cntn_id=136662&WT.mc_id=USNSF_51&WT.mc_ev=click